

事例名	よりよい未来を選択できるこども達の育成をめざして ～所内横断的チームによる思春期保健対策の取組～
チーム名 【所属名】	未来ある若者たちへ知らせ隊 【山城広域振興局山城北保健所】
メンバー氏名	笹井泰代、山本恭子、横谷健太、堀 忍、小嶋 操、大槻眞美子、鈴木俊隆、野村尚貴、藤寄美貴子、稲垣良子、谷彩子、藤江康弘、小嶋新也、和田行雄
アピールポイント	<p>《山城北保健所 所長 和田 行雄》 専門職が揃っている保健所の強みを生かし、所内横断的・他職種連携チームによる新しい視点での思春期保健の取組です。</p> <p>《山城広域振興局 セルフアセッサー 湯瀬 敏之》 高校生や大学生が妊娠や出産について正しく学び、自分たちの将来について考えることができる「未来ある若者たちへ知らせ隊」の取組は、少子化対策の切り札のひとつになるはずです。</p>
取組の目的	妊娠・出産等に関して正確な知識を得る機会がないため、女性自らが「生む・生まない」の選択が正しい知識のもとに行われておらず、晩婚・晩産等による特定不妊治療医療費助成申請者や低出生体重児の増加などの現状の中で、将来生みたい人が皆健康に妊娠・出産できるための正確な知識を結婚・妊娠等を考える前の高校生や大学生が持つことにより、自らが望む人生をプロデュースできる。
取組のターゲット	結婚・妊娠等を考える前の高校生や大学生 思春期教育・保健に携わる学校・医療関係者等 一般府民
取組内容 プロセス	<p>＜人材育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期従事者研修会</li> <li>・思春期出張健康教育(教職員)</li> </ul> <p>＜健康教育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期出張健康教育(生徒)</li> <li>・高校生向け啓発パンフレットの作成</li> </ul> <p>＜関係者、一般府民向け啓発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期フォーラム2014</li> </ul>
＜成果＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは、望まない妊娠を避けるなどの避妊教育が中心であったが、妊娠にも適齢期があることを伝える重要性について理解された。</li> <li>・事業の事後アンケート結果から、思春期保健に取り組む重要性について関係者の理解が深まったと考えられる。</li> <li>・教職員、生徒の感想から、今までとは違った視点での「性(生)教育」が一定教職員、生徒の心に響いたと考えられる。</li> </ul>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所内連携会議で思春期保健対策を所内横断的チームで取り組むことを確認(様々な専門職が揃っている保健所だからできる多面的なアプローチ)</li> <li>・避妊や性感染症に主眼が置かれていた従来の「性教育」ではなく、生きる教育「生教育」の重要性を強調</li> <li>・思春期フォーラムの集客力アップのためにパネラーを多方面から選択、学校からの実践報告については養護教諭ではなく一般教職員を選択</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期従事者研修会の継続実施</li> <li>・学校関係者(特に管理職、一般教職員)、保護者への啓発</li> <li>・高校生向け啓発パンフレットを使用した出張健康教育(生徒、教職員向け)</li> </ul>